

Ⅳ．周産期情報の収集と分析に関する研究

分担研究報告書



九州大学医学部産婦人科

中 野 仁 雄

本研究班では、当該研究課題である「周産期情報の収集と分析に関する研究」に関して、与えられた3年の期間を二分し、各々に趣きを異にする観点から研究を続けてきた。初年度（昭和58年度）は手始めとして周産期医療情報の有する構造的な特徴の解析を研究の主眼とした。その結果、周産期医療情報にはデジタルからアナログまで、あるいは言語から尺度化されたものに至るまで、表現様式の異なるものが混在し、しかもそれらは空間的には多次元の拡がりを、時間的には刻々と変貌する複雑な構造からなることが分かった。また、このような大容量の情報の分析には、コンピュータ・システムを用いることが不可欠であると同時に、医療情報のEDP（Electric Data Processing）化には以下に掲げるいくつかの解決されるべき問題点が存在することも明らかとなった。

1. 原データの形態的な特徴の分析。
2. 情報収集媒体および発生源入出力に関する問題。
3. 情報の処理・加工・表示に関する問題。
4. 大容量データ・ベース構築に関する問題。
5. 情報通信網の確立。

したがって、これらの各事情を個別的に検討してゆくとともに、最終的には全体が統合できるように配慮しながら昭和59、60年度の研究をすすめた。

 **検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用** 
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

本研究班では、当該研究課題である「周産期情報の収集と分析に関する研究」に関して、与えられた 3 年の期間を二分し、各々に趣きを異にする観点から研究を続けてきた。初年度(昭和 58 年度)は手始めとして周産期医療情報の有する構造的な特徴の解析を研究の主眼とした。その結果、周産期医療情報にはデジタルからアナログまで、あるいは言語から尺度化されたものに至るまで、表現様式の異なるものが混在し、しかもそれらは空間的には多次元の拡がり、時間的には刻々と変貌する複雑な構造からなることが分かった。また、このような大容量の情報の分析には、コンピュータ・システムを用いることが不可欠であると同時に、医療情報の EDP(Electric Data Processing)化には以下に掲げるいくつかの解決されるべき問題点が存在することも明らかとなった。

1. 原データの形態的な特徴の分析。
2. 情報収集媒体および発生源入出力に関する問題。
3. 情報の処理・加工・表示に関する問題。
4. 大容量データ・ベース構築に関する問題。
5. 情報通信網の確立。

したがって、これらの各事情を個別的に検討してゆくとともに、最終的には全体が統合できるように配慮しながら昭和 59, 60 年度の研究をすすめた。